

Grace Hopper Celebration of Women in Computing (GHC)を通じて

環境情報4年 加藤 碧

私が参加した Grace Hopper Celebration of Women in Computing (GHC)は、コンピュータサイエンス分野で活躍する女子学生、女性エンジニアを集めて行われる学会である。私はポスターセッションに参加し、スカイプやMSNの通信をより快適にするための通信方式について発表した。この学会には、コンピュータサイエンス分野とアート、化学、医療、社会問題、心理学など、コンピュータサイエンスを他の分野とコラボレートする研究が目立ったが、様々なバックグラウンドを持った方たちのアドバイスをうけることができた。

この学会の参加を通じて、世界で活躍したいと思っている慶應生にフィードバックしたいことが2つある。ひとつは、特殊な色を持っている国際学会が自分の世界観を変えるきっかけになるということ。GHCに参加しているアメリカの女子学生と友達になり、「GHCのような集まりをどのようにとらえているのか」と質問した。すると彼女は「自分たちから環境を変えないと何も変わらない。マイノリティから当たり前の環境を作るためには、キャンペーンを行う必要がある。選挙権も仕事のチャンスも自分たちで当たり前のものにするために、キャンペーンを行ってきた。GHCはコンピュータサイエンスで女性の活躍を一般化するための一つの動きであると思う。」と答えた。「日本の女子学生には、物事が動くことを待つ方が多い。」と私が答えると、「私たちは動かないでいることはつまらないと思ってしまう。例えば結婚して、専業主婦になることは滅多にない。だって、家事以外に何もやる事がないんだもの。社会が動くのを待つのではなく、社会を動かす活動を自分から始めたい。」と彼女は答えた。日本社会の現状を見直すと、結婚というイベントを考慮に入れながら就職をする友達が多く、自分のやりがいと働きがいというものを両立できる環境はまだまだ少ない。また日本社会の中での女性に対する期待がまだまだ少ないのではないかと思う。そういった考え方に触れる事は、ショッキングであり、大きな刺激になった。

ふたつ目は、ロールモデルとなるような女性に会える大きなチャンスになるということ。男女平等な社会とはいえ、自分の夢の舞台で活躍している同性の方がいると、大きな目標になる。世界ランクでトップレベルの大学で学ぶ研究者、学生と議論する機会は滅多に得られない。そのような学会で発表すること

は、GHCのような国際色の豊かな学会はコンピュータサイエンスの分野で活躍するための大きな足がかりになる。

学会に参加している間、私は彼女たちの目力の強さに圧倒された。GHCには奨学金をいただいて参加している発展途上国の学生や、留学生、アメリカ大学で学的女子学生が参加している。世界で活躍することを目指す彼女たちは、過度だと思われるくらいの自己アピール、今後のキャリアを見据えた上での人生設計を十分に考えていた。そういったコミュニティとつながり、ネットワークを作ると、カジュアルトーキングの内容も変わってくる。

百聞は一見にしかず。世界で活躍したいと思っている慶應義塾大学的女子学生には、ぜひ来年度参加してほしいと思う魅力的な学会である。